

平成 30(2018)年度
東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 入試案内書
Guide to the 2018 Entrance Examination,
Department of Civil Engineering,
Graduate School of Engineering, The University of Tokyo

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻

大学院入試担当 芳村 圭 准教授

E-mail: gs@civil.t.u-tokyo.ac.jp

Fax : 03-5841-6085

Any inquiries are sent to Dr. Kei Yoshimura at the above E-mail or Fax.

平成 30(2018)年度
東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 修士課程
入試案内書

平成 30(2018)年度

この案内書は、平成 30(2018)年度 東京大学大学院工学系研究科 修士課程 学生募集要項の説明を補い、社会基盤学専攻の受験に際して必要な事項を記すものである。東京大学大学院工学系研究科入学試験「受験者心得」と社会基盤学専攻のウェブページ (<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>) にも入試関連情報が掲載されている。不明な点は E-mail または Fax で下記まで問い合わせること。

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻
大学院入試担当 芳村 圭 准教授
E-mail: gs@civil.t.u-tokyo.ac.jp
Fax: 03-5841-6085

1. 入学試験科目と日程

入学試験の科目と試験日程は以下のとおりである。試験科目を全て受験することを合格の条件とする。「社会基盤学」においては、調査票提出時に別表 1「社会基盤学および専門学術 A の試験分野」から 2 分野を選択し、別紙 1「修士課程「社会基盤学」試験分野調査票」に記入すること。「社会基盤学」において、英語による試験問題を希望する場合は、別紙 1 の備考欄を参考にして記入すること。調査票提出後の内容変更は一切受け付けない。

試験科目	日時	場所	配点	備考
英語 (TOEFL-ITP [®])	8月28日(月) 9:00~11:30	受験票 発送時に 通知予定	300点	英語の試験は、当日 TOEFL-ITP [®] を受験するか、出願時に TOEFL 公式スコアを提出するかをいずれかを選択できる。後者を選択した場合は、当日 TOEFL-ITP [®] を受験することはできない。詳細は、募集要項別紙を参照すること。
社会基盤学	8月28日(月) 13:00~16:00	工学部 1号館 受験室は 当日指示する	700点 (350点×2)	別紙 1 で届け出た 2 分野を解答する。 試験当日の選択分野の変更はできない。
口述試験	8月29日(火) 9:00~12:30 詳細な時間は 8月28 日の試験時に指示	工学部 1号館 受験室は 8月 28日の試験時 に指示する	200点	口述試験では、一人 10 分程度の面接を行い、志望動機、社会基盤学専攻での修学に必要な基礎的な学力、適性、希望する研究分野に関する基礎的な能力、資質について質問する。 公共交通機関の遅延など不測の事態を除き、8月28日に指示する集合時間への遅刻は認めない。

2. 試験に際しての持参用具

- 受験票
- 黒色鉛筆（又はシャープペンシル）、消しゴム、鉛筆削り（卓上式は不可）、時計（計時機能だけのもの）。計算機と定規の使用は認めない。
- 携帯電話等の電子機器類は、試験室入室前にアラームの設定を解除した上で電源を切り、カバン等に入れ、身につけないこと。携帯電話等を時計として使用することは認めない。

3. 9月入学について

社会基盤学専攻においては、大学（学部）を卒業または平成 29 年 9 月 30 日までに卒業見込みの者で、かつ希望する者については、平成 29 年 9 月修士課程入学を認める。希望者は、東京大学大学院工学系研究科 修士課程 学生募集要項の工学系研究科修士課程入学願書の該当欄に○印を付けること。

4. 指導教員グループの希望調査と学生配属ルール

別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」から、入学後に希望する専門分野に応じて、配属を希望する指導教員グループを選択する。平成29年5月27日（土）13:00より工学部1号館15号教室で行われる社会基盤学専攻入試説明会に参加し、配属希望の指導教員グループ選択の参考とすることが望ましい。

別紙2「修士課程 指導教員グループ希望調査票」に配属を希望する指導教員グループの順位を第1希望から重複なく記入すること。この際、必ずしも全ての指導教員グループに対して希望順位を記入しなくてもよいが、希望順位を記入した指導教員グループのいずれにも配属できない場合には不合格となるので注意すること。ただし、外国人（定員外）受験生のうち、他大学や他学科など本学社会基盤学科卒業（見込みを含む）以外の者は、希望する指導教員名を記入すること。

別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」に指導教員グループごとの基本定員（最小受入れ学生数）と最大定員（最大受入れ学生数）が示されている。指導教員グループ（以下では単にグループと呼ぶ）への学生配属ルールは次の通りである。

- 全てのグループにおいて、第1希望の合格者数が基本定員以上、かつ、原則として最大定員以内であれば、全ての合格者は第1希望のグループに配属される。
- 合格者の第1希望で基本定員が充足しないグループがある場合には、まず入学試験の合計点に基づいて合格候補者を決定する。
- 次に、基本定員を超える第1希望の合格候補者数が多いグループから、基本定員を超える合格者数を順次減じ、各グループの配属学生数が基本定員以上となるように配属学生数を決定する。
- 最後に、各グループが第1希望の合格候補者の中から配属学生を決定する。
- 第1希望のグループに配属されなかった合格候補者は、別紙2「修士課程 指導教員グループ希望調査票」に記入した希望順位に基づいて、配属学生数が充足していないグループに順次配属される。

配属されるグループは、平成29年9月7日（木）16:00の合格発表後に社会基盤学専攻ウェブページ (<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>) および社会基盤学専攻事務室前に掲示される。指導教員は、配属が決定したグループ内で適宜決定される。

5. 調査票の提出先と提出期限

提出物：別紙1「修士課程「社会基盤学」試験分野調査票」

別紙2「修士課程 指導教員グループ希望調査票」

提出先：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻事務室 宛

直接持参するか書留郵便にて送付

提出期限：平成29年7月13日（木）17:00必着

別紙1および別紙2の提出先は、東京大学大学院工学系研究科 修士課程 学生募集要項にある「提出書類等（入学願書）」とは異なるので注意すること。

6. 過去の入試問題の入手

社会基盤学の過去の入試問題は、社会基盤学専攻ウェブページ (<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>) で公開している。

平成 30(2018)年度
東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 博士後期課程
入試案内書

平成 30(2018)年度

この案内書は、平成 30(2018)年度 東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程 学生募集要項の説明を補い、社会基盤学専攻の受験に際して必要な事項を記すものである。東京大学大学院工学系研究科入学試験「受験者心得」と社会基盤学専攻のウェブページ (<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>) にも入試関連情報が掲載されている。不明な点は E-mail または Fax で下記まで問い合わせること。

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻
大学院入試担当 芳村 圭 准教授
E-mail: gs@civil.t.u-tokyo.ac.jp
Fax: 03-5841-6085

1. 入学試験科目と日程

第 1 次入学試験の科目と日程は以下のとおりである。試験科目を全て受験することを合格の条件とする。「専門学術 A」については、調査票提出時に別表 1「社会基盤学および専門学術 A の試験分野」から 1 分野を選択し、別紙 3「博士後期課程受験調査票」に記入すること。「専門学術 A」ならびに「専門学術 B」において、英語による試験問題を希望する場合は、別紙 3「博士後期課程受験調査票」の備考欄を参考にして記入すること。調査票提出後の内容変更は一切受け付けない。

試験科目	日時	場所	配点	備考
英語 (TOEFL-ITP [®])	8 月 28 日 (月) 9:00~11:30	受験票 発送時に 通知予定	300 点	英語の試験は、当日 TOEFL-ITP [®] を受験するか、出願時に TOEFL 公式スコアを提出するかのいずれかを選択できる。後者を選択した場合は、当日 TOEFL-ITP [®] を受験することはできない。詳細は、募集要項別紙を参照すること。なお、本学大学院工学系研究科修士課程修了(見込み)者については、英語を免除する。
専門学術 A	8 月 28 日 (月) 13:00~15:00	工学部 1 号館 受験室は 当日指示する	1000 点	別紙 3 で届け出た 1 分野を解答する。 試験当日の選択分野の変更はできない。
専門学術 B	8 月 28 日 (月) 15:30~17:30		1000 点	希望研究課題に関する専門的な基礎知識を判定する。
希望指導教員 による 口述試験	8 月 28 日 (月) 又は 8 月 29 日 (火) 教員の指定時刻	希望 指導 教員室		受験票を受領後、第 1 希望の指導教員にメール等で連絡を取り、口述試験の日時等について確認すること。
社会基盤学専攻 教員による 口述試験	8 月 29 日 (火) 14:00~ 詳細な 時間は 8 月 28 日の 試験時に指示	工学部 1 号館 受験室は 8 月 28 日の試験 時に指示する		公共交通機関の遅延など不測の事態を除き、8 月 28 日に指示する集合時間への遅刻は認めない。

第 2 次試験は原則として 1 月下旬から 2 月上旬の実施とし、期日・場所は追って通知する。ただし、入学願書により 9 月入学を希望した場合は、8 月上旬から 9 月上旬の間に第 2 次試験を先行して行う。日時、場所、修士論文等の必要資料の事前提出については前もって通知する。

社会基盤学専攻においては出願日程 B による試験は実施しない。

2. 試験に際しての持参用具

- 受験票
- 黒色鉛筆 (又はシャープペンシル)、消しゴム、鉛筆削り (卓上式は不可)、時計 (計時機能だけのもの)。計算機と定規の使用は認めない。

携帯電話等の電子機器類は、試験室入室前にアラームの設定を解除した上で電源を切り、カバン等に入れ、身につけないこと。携帯電話等を時計として使用することは認めない。

3. 9月入学について

社会基盤学専攻においては、修士の学位を得た者および平成29年9月30日までに修士の学位を得る見込みの者で、かつ希望する者については、平成29年9月博士後期課程入学を認める。希望者は、東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程 学生募集要項の工学系研究科博士後期課程入学願書の該当欄に○印を付けること。

4. 指導教員の希望調査と決定

別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」から、希望する指導教員を第1希望から第3希望まで選び、別紙3の「博士後期課程受験調査票」に記入する。

指導教員名は、平成29年9月7日（木）16:00の合格発表後（4月入学予定者については2次試験合格発表後）に社会基盤学専攻ウェブページ (<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>) および社会基盤学専攻事務室前に掲示される。

5. 調査票の提出先と提出期限

提出物：別紙3「博士後期課程受験調査票」

提出先：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻事務室 宛

直接持参するか書留郵便にて送付

提出期限：平成29年7月13日（木）17:00 必着

別紙3の提出先は、東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程 学生募集要項にある「提出書類等（入学願書）」とは異なるので注意すること。

6. 過去の入試問題の入手

専門学術Aの過去の入試問題は、社会基盤学専攻ウェブページ (<http://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>) で公開している。専門学術Bの過去の入試問題は非公開である。

平成 30(2018)年度 社会基盤学および専門学術Aの試験分野と出題範囲の概要

試験分野	出題範囲	東京大学工学部 社会基盤学科での 対応する学部講義
分野 1 (構造・設計)	構造力学(はり・柱の力学, エネルギー原理, 安定・不安定問題), 連続体力学の基礎, 構造設計の基礎知識, 構造振動・耐震の基礎知識	構造の力学 材料の力学 振動・制御・計測 橋の計画と設計
分野 2 (材料・地盤)	フレッシュコンクリートと施工計画, コンクリート構造の力学性能, 無機複合材料の硬化と耐久性, コンクリート構造物の維持管理と資源循環, 地盤材料の力学(圧密, せん断, 締固め, 透水), 土構造(基礎, 盛土, 掘削, 斜面)	性能照査と設計 コンクリート工学 地盤の工学 地盤の構造学 基盤技術設計論
分野 3 (水圏工学)	完全流体の力学, 運動量保存の法則とベルヌイの定理, 層流と乱流, 管路・開水路の流れ, 水面波の基礎(微小振幅波理論, 浅海域での規則波の変形, 長周期の波), 河川・海岸計画	基礎流体力学 水理学 海岸工学 河川-海岸計画概論
分野 4 (経済・空間情報)	経済学的基礎, ミクロ経済学, 測量学, 地理情報システム, リモートセンシング	基礎経済学 空間情報学 I 空間情報学 II
分野 5 (国土・都市・交通・景観)	現代・近代の都市及び国土の政策と計画の動向, 交通整備の歴史的側面, 交通と都市及び国土の関連性に関わることから, 交通の経済的・政策的側面及び工学的側面に関わる基礎知識, 地域・都市の分析手法の基礎, 都市計画制度に関する基礎知識, 景観の操作論と分析・予測・評価, 景観意味論と伝統風景, 土木景観の設計各論	国土学 都市学 交通学 景観学
分野 6 (国際プロジェクト・マネジメント)	建設プロジェクトマネジメント, 建設産業論, 公共調達制度, 技術者倫理, 政策決定システム, 途上国開発援助に関する基礎知識, 開発経済学の基礎, 社会技術, 社会問題, イノベーション	マネジメント原論 プロジェクトマネジメント 開発とインフラ 社会技術論
分野 7 (数学)	工学系研究科試験科目「一般教育科目の数学」から 2 問選択解答	

平成 30(2018)年度 社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表

指導教員グループ	基本定員 (最大定員)	指導教員	研究内容
都市と交通	4 (10)	羽藤 英二 教授	都市計画, 都市生活学, 移動体計測-シミュレーション, モビリティデザインと移動空間設計論
		大口 敬 教授(生研)	交通制御工学, 交通流・交通挙動解析, 交通運用影響評価, 先進モビリティ研究開発
		坂井 康一 准教授(生研)	交通政策論, 交通施策の地域展開, 高度道路交通システム
空間情報	7 (17)	清水 英範 教授	歴史地理学(特に, 近代都市計画史), 数理地理学, 都市計画(特に, 土地問題と土地政策)
		堀 宗朗 教授(震研)	計算地震工学, 応用・計算力学, 統合地震シミュレータ開発, 日本列島モニタリング手法の開発
		布施 孝志 教授	空間情報学, 地域の動態解析, 計測とシミュレーションの統合, 写真測量, 画像処理, 3次元視覚化
		関本 義秀 准教授(生研)	人と都市のダイナミクス分析, 移動体のモデルと観測データの同化, クラウドソーシングを活用した機械学習, 社会基盤情報の流通, オープンデータの促進
		竹内 渉 准教授(生研)	リモートセンシングと GIS, グローバルな土地利用と炭素循環, 陸域生態系の管理政策
		市村 強 准教授(震研)	都市・社会のシミュレーション, computational science, 計算地震工学/地震学
		ラリス ウィジャラトネ 准教授(震研)	計算地震工学, システム統合, マルチエージェントシミュレーション
マネジメント	1 (3)	小澤 一雅 教授	建設マネジメント, 公共調達, インフラマネジメント, 人的資源マネジメント, 国際プロジェクトマネジメント
		〇堀田 昌英 教授(新領域)	公共マネジメント, 社会的意思決定論, 事業制度設計, 国際コンフリクトマネジメント
デザインと景観	1 (5)	中井 祐 教授	景観論, 公共空間・公共施設のデザインとまちづくり, 近代土木デザイン史
水圏環境	10 (23)	佐藤 慎司 教授	沿岸水害の軽減, 海岸侵食, 沿岸の波と流れの力学, 水辺の利用と防災, 流砂系の土砂移動マネジメント, 海岸保全計画
		田島 芳満 教授	氾濫のシミュレーションと減災防災, 波と流れ, 海浜変形のモニタリングと予測
		池内 幸司 教授	水災害の防災・減災, 水災害のリスク評価, 治水計画, 気候変動への適応策, 河川環境の保全・復元, ICT・UAV等を活用した新たな河川管理・危機管理手法, 水と防災に関する政策
		沖 大幹 教授(生研)	グローバルな水循環と世界の水資源, 水と気候変化・食料・エネルギー, 健全な水循環と持続可能な国土
		知花 武佳 准教授	河川生態環境工学, 河川地形学, 河道計画, 流域環境の保全と再生
		下園 武範 准教授	波浪シミュレーション, 底面境界層力学, 土砂輸送と地形変化, 海岸構造物, 海岸防災
		平林 由希子 准教授(生研)	水循環の情報科学, 水資源の持続可能性, 雪氷水文学, 地球温暖化時の水災害軽減
		芳村 圭 准教授(生研)	水同位体気象学, 地球規模物質循環, 地表面過程, 洪水予測, 力学的ダウンスケーリング
		沖 一雄 准教授(生研)	広域の水・生態・環境計測, 流域の生態・環境モデリング, 環境保全型流域圏の構築
		川崎 昭如 准教授(寄付講座)	水循環および水関連分野(環境・災害・経済)のデータ統合と分野間連携による水問題解決の実践
		金 炯俊 准教授(生研)	大規模水文・気象モデリング及びデータ解析手法の開発, 衛星地球観測, 気候変動影響評価
		木口 雅司 講師(生研)	モンスーン気候変動学, 全球水資源評価, 温暖化による降水現象への影響
		〇鯉淵 幸生 准教授(新領域)	沿岸域の水環境, 水質・生態系・流動・物質循環・シミュレーション, 沿岸域の環境計画
基盤技術と設計 A	4 (10)	古関 潤一 教授	液状化の予測と対策, 擁壁の耐震性と補強, 砂・礫・軟岩・改良土の変形強度特性, 地盤の限界状態設計
		桑野 玲子 教授(生研)	地盤機能保全, 土質試験, 土構造物・地中構造物の長期挙動と維持管理, 微生物を利用した地盤強化
		清田 隆 准教授(生研)	地震災害軽減工学, 地盤耐震工学, 南アジアの地震災害機構解明と防災への反映, 地質調査
基盤技術と設計 B	9 (22)	石原 孟 教授	風と構造物の相互作用, 構造物の信頼性設計と健全性評価, 風環境の数値予測と予報, 洋上風力発電技術の開発
		石田 哲也 教授	セメント系無機複合材料と RC 構造の寿命予測技術, マルチスケール統合解析, 多孔体熱力学, 地圏環境工学
		岸 利治 教授(生研)	コンクリートの機構解明と技術開発, マイクロ・ナノ空間中の物理化学, レオロジーと流体の運動, 竣工検査と耐久性検証, ひび割れ自己治癒コンクリート
		長山 智則 准教授	橋梁振動, 構造モニタリング, 移動体センシング, モデル同定
		長井 宏平 准教授(生研)	新セメント系材料の力学特性, RC 部材定着機構の解明と設計合理化, 成熟社会におけるインフラ維持管理
		山口 敦 准教授(社会連携)	リアルタイム風予報, 風況予測と風力発電賦存量推定, 風力発電設備の荷重評価
		ス デイ 講師	構造物の応答シミュレーション, 交通振動の計測と応答予測, 非接触構造モニタリング手法の開発
酒井 雄也 講師(生研)	建設材料の次世代リサイクル, 高度な維持管理のための非破壊検査, マイクロ/ナノテクノロジーを活用したアナログ実験, セメント硬化体のレオロジー		
国際プロジェクト	2 (10)	加藤 浩徳 教授	国際プロジェクト学, 国際交通学, 交通計画, 交通政策
		小松崎 俊作 講師	社会技術論, 公共政策学, 政治過程分析, 社会イノベーションの事例分析
		〇本田 利器 教授(新領域)	社会的レジリエンス, 社会ネットワーク, 地震工学, 技術移転, 維持管理工学
		併任教員: 目黒 公郎 教授(都市・防災), 沖 大幹 教授(水圏環境), 石田 哲也 教授(基盤技術と設計 B), 田島 芳満 教授(水圏環境), 竹内 渉 准教授(空間情報)	
都市・防災	2 (4)	目黒 公郎 教授(情報/生研)	ユニバーサル地震災害環境シミュレータ, 国際防災戦略, 防災制度設計, 地域防災計画と防災マニュアル, 構造物の動的破壊現象, リアルタイム地震防災対策, 災害情報データベース, 災害時の人間行動
		沼田 宗純 講師(情報/生研)	防災プロセス工学, ハザード解析・被害推定から災害対応まで一貫する防災システムのデザイン

備考 1: ○は兼任教員を表す。兼任教員は社会基盤学専攻に講義の担当などの形で協力するが, 原則として社会基盤学専攻の学生の論文指導は行わない。
 備考 2: (生研): 生産技術研究所所属教員, (震研): 地震研究所所属教員, (空間): 空間情報科学センター所属教員, (新領域): 新領域創成科学研究科所属教員
 (情報): 情報学環所属教員, (寄付講座): 本専攻寄付講座, (社会連携): 本専攻社会連携講座
 備考 3: 各グループ内での指導教員は協議のうえ決定されることになる。研究内容は例示であり, 学生の研究テーマは入学後に決定される。
 基本定員の総和を超える合格者数については, 第一希望が満たされない合格者が最小となるように各グループの配属学生数を決定する。

別紙1

平成30(2018)年度 修士課程「社会基盤学」試験分野調査票

- 受験番号： _____ (事務局用，記入不要)
- 氏名(ふりがな)： _____
- 出身大学と学部名： _____
- 電話番号： _____
- 試験科目「社会基盤学」で解答する試験分野名

試験分野名1	
試験分野名2	

- 英文の問題用紙を希望する場合は□を塗りつぶす 英文問題用紙希望

備考

1. 別表1「社会基盤学および専門学術Aの試験分野と出題範囲の概要」に記載されている7つの試験分野から，試験科目「社会基盤学」で解答する試験分野名を重複なく2つ選択し，上の表に記入する．試験分野名は，別紙2で提出する「入学後専攻したい指導教員グループの希望」にかかわらず，別表1の試験分野から自由に選択してよい．
2. 試験科目「社会基盤学」において，英文で書かれた問題用紙を希望する場合は，□を塗りつぶして■とする．塗りつぶさない場合，問題用紙は日本語となる．
3. 本調査票提出後の内容変更は一切受け付けない．
4. 提出先：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻事務室 宛
直接持参するか書留郵便にて送付
提出期限：平成29年7月13日（木）17:00必着

本調査票の提出先は，東京大学大学院工学系研究科 修士課程 学生募集要項にある「提出書類等(入学願書)」とは異なるので注意すること．

平成30(2018)年度 修士課程 指導教員グループ希望調査票

- 受験番号： _____ (事務局用，記入不要)
- 氏名(ふりがな)： _____
- 出身大学と学部名： _____
- 電話番号： _____
- 入学後専攻したい指導教員グループの希望順位

指導教員グループ	希望順位 (1から重複なく記入)	
都市と交通	第	希望
空間情報	第	希望
マネジメント	第	希望
デザインと景観	第	希望
水圏環境	第	希望
基盤技術と設計A	第	希望
基盤技術と設計B	第	希望
国際プロジェクト	第	希望
都市・防災	第	希望

備考

1. 別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」を参照して，指導教員グループの希望順位を第1希望から順位の重複なく最大第9希望まで記入する。
本学社会基盤学科卒業(見込み含む)以外の外国人受験生(定員外)は，希望する指導教員1名を記入する。指導教員名： _____
2. 希望順位を記入しない指導教員グループがある場合，配属先が決まらず不合格となる場合があるので注意すること。
3. 本調査票提出後の内容変更は一切受け付けない。
4. 提出先：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻事務室 宛
直接持参するか書留郵便にて送付
提出期限：平成29年7月13日(木) 17:00必着

本調査票の提出先は，東京大学大学院工学系研究科 修士課程 学生募集要項にある「提出書類等(入学願書)」とは異なるので注意すること。

平成 30(2018)年度 博士後期課程受験調査票

- 受験番号： _____ (事務局用，記入不要)
- 氏名(ふりがな)： _____
- 出身大学院名： _____
- 電話番号： _____
- 試験科目「専門学術A」で解答する試験分野名

試験分野名	

- 英語による試験問題を希望する場合は□を塗りつぶす □ 英語試験問題希望
- 希望する指導教員名

希望順位	指導教員名
第1希望	
第2希望	
第3希望	

- 博士後期課程で希望する研究課題

- 修士論文の研究課題 (現時点での情報で構わない)

備考

1. 別表1「社会基盤学および専門学術Aの試験分野と出題範囲の概要」に記載されている7つの試験分野から，試験科目「専門学術A」で解答する試験分野名を1つ選択し，上の表に記入する。
2. 別表2「社会基盤学専攻指導教員・研究内容一覧表」を参照して第1希望から第3希望まで教員名を記入する。第2または第3希望を記入していない場合は，特段の希望がないものとみなされる。
3. 試験科目「専門学術A」ならびに「専門学術B」において，英語による試験問題を希望する場合は，□を塗りつぶして■とする。塗りつぶさない場合，試験問題は日本語となる。
4. 本調査票提出後の内容変更は一切受け付けない。
5. 提出先：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻事務室 宛
直接持参するか書留郵便にて送付
提出期限：平成 29 年 7 月 13 日 (木) 17:00 必着

本調査票の提出先は，東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程 学生募集要項にある「提出書類等(入学願書)」とは異なるので注意すること。

平成30(2018)年度 東京大学大学院工学系研究科入学試験受験者心得

1. 試験日

平成 29 年 8 月 28 日(月)～9 月 1 日(金)

(各科目等の試験時間・場所の詳細は、志望専攻の「専攻入試案内書」を参照すること。)

2. 試験場

東京大学大学院工学系研究科(東京都文京区本郷 7-3-1)試験場案内図参照

- (1) 各自が受験すべき科目の試験室については、平成 29 年 8 月 25 日(金)午前 10 時に工学系研究科掲示板及び各専攻掲示板に掲示するので、予め試験室を確認しておくこと。また、各専攻の掲示板等も必ず確認すること。

TOEFL ITP 試験を受験する者は、別紙「外国語試験(TOEFL ITP)受験案内」も参照すること。なお、受験者によっては、外国語試験(TOEFL ITP)と一般教育科目(一般学術)及び専門科目(専門学術)の試験室が異なる場合があるので、注意すること。

- (2) 受験者は、試験開始時刻の 15 分前までに所定の試験室に入室すること。なお、専門科目(専門学術)試験については、専攻において別に指示することもある。

3. 携行品

- (1) 受験票
- (2) 黒色鉛筆(又はシャープペンシル)、消しゴム、鉛筆削り(卓上式は不可)、時計(計時機能だけのもの)
- (3) 携帯電話等の電子機器類は、試験室入室前にアラームの設定を解除した上で電源を切り、カバン等に入れ、身につけないこと。携帯電話等を時計として使用することは認めない。
- (4) 専門科目(専門学術)試験の携行品については、専攻において別に指示することもある。

4. 一般教育科目(一般学術)試験時の留意事項

- (1) 試験開始後は、解答が終わった場合でも、また、受験を放棄する場合でも退室を許さない。
- (2) 試験時間中、受験票を常に机の上に置くこと。
- (3) 一般教育科目(一般学術)試験においては、解答用紙ごとに受験番号を記入すること。氏名は書いてはならない。1 問ごとに必ず 1 枚の解答用紙を使用すること。書ききれない場合は、裏面を使用してもよい。試験終了後、解答用紙上部の指定箇所を正しく切り取ること。
- (4) 解答用紙及び問題冊子は、持ち帰ってはならない。

5. 博士課程第 2 次試験

博士課程第 2 次試験は、原則として平成 30 年 1 月下旬から 2 月中旬とし、期日・場所は追って通知する。

6. その他

- (1) 合格者は、平成 29 年 9 月 7 日(木)午後 4 時、工学系研究科掲示板に掲示する。また、平成 29 年 9 月 8 日(金)までに本研究科 Web サイトに掲示する。Web サイトへの掲載時刻は上記の掲示板への掲示より後となる。(<http://www.t.u-tokyo.ac.jp/soe/index.html> からリンクする。)
- (2) 合格者については、翌日付で、合格通知書を本人あてに郵送する。電話、FAX、メール等による合否の照会には応じない。
- (3) 出願以後において、現住所、受信場所等に変更が生じた場合には、速やかに届け出ること。
- (4) 問合せ先：東京大学大学院工学系研究科学務課大学院チーム(03-5841-6038、7747)

Notice for Examination ~The 2018 Master's / Doctoral Program Graduate School of Engineering the University of Tokyo~

1. Examination Dates

Examinations will be held over five days, from August 28 (Monday) through September 1 (Friday), 2017.

(For details on times and location of the examination subjects, refer to "Guide to Entrance Examination" of the department you are applying to.)

2. Examination Location

Refer to the "Campus Map for the Examination" [see the attached paper].

(1) The actual place of the examination subjects for applicants will be posted on the bulletin board for School of Engineering and each department at 10:00 a.m. on August 25 (Friday), 2017.

Confirm the specified place for the examination subjects beforehand. In addition, confirm the bulletin board for the department you are applying to.

Applicants registered for the examination of TOEFL ITP must refer to the "Guide for Applicants Taking the Examination of TOEFL ITP" [see the attached paper]. Note that the examination room of TOEFL ITP, Regular education subjects(一般教育科目(一般学術)), and specialized subjects(専門科目(専門学術)) may differ.

(2) Applicants should arrive at the specified place for the examination subjects 15 minutes prior to the scheduled examination time.

For the examination of specialized subjects(専門科目(専門学術)), also refer to notice by the department you are applying to.

3. Items to Bring

(1) Examination admission card

(2) Black pencils (or black mechanical pencils), an eraser, a pencil sharpener (a desktop type is not allowed) and a watch (only with a time measurement function is allowed).

(3) Use of electronic devices such as cell phones is strictly prohibited throughout the examination, even if you only use it as a watch. Make sure to completely deactivate the alarm setting, turn off the phone power, and put it in your bag before you enter the examination room. Do not take it out in the examination room.

(4) For the item to bring for the examination of specialized subjects(専門科目(専門学術)), refer to notice by the department you are applying to.

4. Notice during Examination of Regular Education Subjects (一般教育科目(一般学術))

(1) Applicants can not leave the examination room after the start of the examination.

(2) The Examination admission card must be kept on your desk at all times during the examination.

(3) For the examination of regular education subjects(一般教育科目(一般学術)), applicants must write his/her examinee number on each answer sheet, not his/her name. Applicants must use one answer sheet for each problem. Applicants can use the reverse side if necessary. At the end of the examination, follow your proctor's instructions and carefully tear off the designated places.

(4) Applicants can not take away the answer sheets and the problem booklets after the examination.

5. The Secondary Examination for Applicants to the Doctoral Program

The secondary examination will be held between late January and mid-February, 2018.

Applicants will be advised of Examination dates and location regarding secondary examinations for the department you are applying to later.

6. Miscellaneous

(1) The Examinee Numbers of successful applicants will be posted on the School of Engineering bulletin board at 4:00 p.m. on September 7 (Thursday), 2017.

The Examinee Numbers of successful applicants will be posted on the web site of the School of Engineering by September 8 (Friday), 2017, as well. It will be next from the post time to the bulletin board mentioned above. (The page will be linked from <http://www.t.u-tokyo.ac.jp/soe/index.html>).

(2) Successful applicants will be notified of authorization for admission by mail from the day following the announcement of successful applicants. The School will not accept telephone calls, fax, e-mail, and other inquiries regarding the results of the examinations.

(3) After the application process is complete, applicants must report immediately in case of change of current address or contact.

(4) For inquiries, contact: Graduate School Team, Administrative Division, School of Engineering, the University of Tokyo (03-5841-6038,7747)

試験場案内(東京大学本郷キャンパス)
Campus Map for the Examination
(Hongo campus, the University of Tokyo)

地下鉄利用 Subway

- 本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線) 徒歩20分
Hongo-sanchome Station (Subway Marunouchi Line) 20min.walk
- 本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線) 徒歩20分
Hongo-sanchome Station (Subway Oedo Line) 20min.walk
- 根津駅(地下鉄千代田線) 徒歩15分
Nezu Station (Subway Chiyoda Line) 15min.walk
- 東大前駅(地下鉄南北線) 徒歩10分
Todaimae Station (Subway Namboku Line) 10min.walk

その他のアクセスについては次を参照のこと

Refer to the following for other accesses

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html

